

実施計画事業名		高齢者社会参加・生きがいづくり事業		評価対象年度	平成 22 年度		
評価担当部署		生活福祉部介護高齢課		課長(主幹)名	中川 幹 男		
総合計画体系	分野	2	保健・医療・福祉				
	政策	3	支え合いだれもが安心して暮らせるまちづくり				
	施策	2	高齢者福祉を推進します				
	関連施策						
現状と課題	高齢者の人口の増加にともない、事業の対象人数も増加している一方で、老人クラブ数の減少や敬老会を開催しない町内会も増えている。地域の中で自らの経験と知識を活かし、社会参加する機会の拡大を図ることを支援することが必要である。						
目的	高齢者と地域住民の交流機会の増加や、社会参加により、高齢者が生きがいを持ち、健康でいきいきとした生活を送れるようにする。						
5ヶ年展開の施策	①敬老祝品及び敬老祝金の支給 ②町内会の敬老会行事への助成 ③高齢者社会参加活動事業(市内バス等の利用を支援) ④高齢者入浴支援(公衆浴場等の利用を支援) ⑤老人クラブ活動への支援(単位老人クラブ、連合会) ⑥老人福祉センターの運営						
成果指標	名称		単位		21年度	22年度	25年度
	(設定できず)				目標	-	-
活動指標	名称		単位		21年度	22年度	25年度
	高齢者入浴支援事業利用者数		人		目標	32,000	24,000
活動指標	説明		1年間に利用した高齢者の延べ人数		実績	32,061	25,200
	老人福祉センター登録者数		人		目標	220	220
活動指標	説明		毎年3月末現在		実績	210	228
	老人クラブ加入率		%		目標	23.5	23.1
活動指標	説明		老人クラブ会員数(稚老連4月末現在会員数) / 高齢者人口(9月末現在) × 100		実績	20.9	20.5
					目標	-	-
活動指標	説明				実績		
事業費の実績			単位	21年度 (決算)	22年度 (評価年度決算見込)	23年度 (予算)	備考
	直接事業費(A)		千円	85,596	79,900	83,847	
	国庫支出金		千円	0	0	0	
	道支出金		千円	1,702	1,491	1,261	
	起債		千円	0	0	0	
	その他		千円	0	0	0	
	一般財源		千円	83,894	78,409	82,586	
	この事業にかかる職員数		人/年	0.59	0.46	0.46	
人件費(B)		千円	4,086	3,124	3,124		
計(A+B)		千円	89,682	83,024	86,971		
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化 高齢者社会参加活動事業(市内バス等利用支援)は、3年毎に利用実態調査を実施し、事業の見直しを行っており、平成20年度の調査結果に基づき、22年度、23年度事業費を削減した。23年度利用実態調査を実施するため、25年度事業を見直す。						

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測) a a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する> 目的である高齢者と地域住民の交流や、社会参加等については事業が定着しており達成されている。
	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか b a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する> 細事業の中で特に危惧される事業として、入浴支援事業については市内の公衆浴場事業者の高齢化や後継者問題などにより事業の廃業が続いており、現在市内の公衆浴場は2箇所(S54 11箇所→H22 2箇所)のみとなった。公衆浴場の件数が減ることあわせ利用者も減少傾向にあり、公衆浴場については経営者の高齢化等とともに全廃される可能性を危惧する。今後の公衆衛生のあり方や高齢者の心身の健康維持という事業の方向性を事業課と衛生を所管する課で検討を必要とする。また、高齢者3事業についても、高齢者人口が増加することから今後において事業の見直しが必要となる。
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
コ ス ト 効 率	
総 合 評 価	A 概ね問題なし <A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 現状では、大きな問題はないと考える。しかし、先にも触れたが高齢者人口の増加により各細事業において、事業費の増やサービス事業者の減少という課題があることから高齢者のニーズを的確に把握し事業の見直し含め検討する。高齢者のニーズ把握のためのアンケート調査や老人クラブとの意見交換などの場を設定するなど様々な意見を聴取する機会づくりが必要である。

【2次評価】

成 果	a	細事業の構成	b	細事業の進め方	a	コスト効率	a
総 合 評 価	A 概ね問題なし <2次評価者の視点からコメントを記入する> 1次評価のとおり取り進めること。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--